

【事例②-基本情報】

介護度		要介護4	年齢	79歳	性別	男性
家族状況	家族構成	妻、長女、次女の4人家族			関係	良好
	状況	妻と同居、娘2人は海外在住でコロナ禍のため帰国できない状況。				
	定期巡回への理解・意向	本人	家に帰りたいと強い思いがあった。			
		家族	本人の希望に添いたいが、不安があり在宅看取りか緩和ケアか悩んでいる。			
疾病	肝細胞癌、右中葉肺腺癌、C型慢性肝炎					
	服薬	オプソ、オキノーム、ナルサス6H毎、フェントステープ				
ADL	尿意、便意曖昧で、パット内で排泄。 四肢の可動域に問題なし、拘縮もなし。 端座位、立位は不可。ベッド上での生活である。					
依頼経緯	肝癌ターミナルで急性期病院へ入院していたが、コロナ禍で面会が出来ず、本人は「家に帰りたい」という強い思いがあった。同居の妻は介護力はなく、レスパイト入院の受け入れ先の確保は出来ている状態。 ケアマネより「余命2~3日となるか分からないが、複数回のオムツ交換と清潔保持で訪問してほしい」と依頼があり、本サービスを利用することとなる。（入浴は本人の状況を見ながら訪問入浴を検討）					
開始時のプラン	一体型 ・ <u>連携型</u> ※○をお願いします					
	課題	妻は在宅での看取りに不安があり、不安軽減。				
	定期巡回での支援の方針	排泄介助、水分補給、清潔保持、服薬介助、緊急時の随時訪問 9:30、15:00、21:00 3/dで訪問 本人が最期まで在宅生活が出来るように、ヘルパーは妻の出来ないオムツ交換や清拭を行う。看護師は疼痛コントロールと体調確認を行い、本人と妻の想いを傾聴することで夫婦の不安軽減を行う。				
開始時の状況	入院中はトイレ、食事、口腔ケアとご自分で出来る事もたくさんあったが、倦怠感の出現により退院日の前日にトイレに立てなくなった。 退院直後には胸痛が出現し食欲不振となり自力摂取が難しくなる。退院後は、ベッドをギャッジアップし、食事はヨーグルト状、小さくカットした果物、水分補給（トロミなし）は、妻の介助で食べておられる状態でした。妻が服薬、水分補給等の介助は行ってくれるため、1日3回（9:30頃・15:00頃・21:30頃）訪問し、身体面の排泄介助、口腔ケア、全身清拭を行う。 看護師は、1/Wの足浴と洗髪、必要時に疼痛コントロールで訪問開始となる。 妻が困った時は、ケアコール端末により通報してもらい、随時訪問を行う。本人にゆっくりと声かけを行いながら訪問実施。痛みに「あーあー」と唸ったり身体のやり場が無く手足を挙げる等の動作が見られました。					